



## 【しろがね特別支援学校のセンター的機能】

専門アドバイザーの仕事を紹介します



友達同士のトラブルが多いという相談内容がよく寄せられます。友達同士で解決できるような場合でも、教師による適切な励ましと丁寧な支援をすることで、より一層学ぶことができます。

トラブルが起きる場面について聞いてみると、集団でのゲームの場面が上げられますが、一方で、教師がゲームの最中に子どもの状況を見ていない場面が多いのがいつも気になっていました。トラブルがあるときこそ、指導する絶好のチャンスなのです。

相談対象は年長のA君です。A君は2歳の時から相談としていた子どもで、友達とおもちゃの取りあいになったり、ゲームで負けたりすると怒って友達を叩いたりする子どもでした。

先日の観察では、年長児はクラス全員でドッチボールをしていました。観察のポイントは、「明らかにA君にボールが当たった時」「A君にボールが当たったか微妙な時」「A君は友達にボールを当てたつもりだが、当たったか微妙な時」「A君がボールに触れる機会が少ない時」「ボールを友達と取りっこになった時」「ラインをオーバーして友達に注意された時」などです。

担任の先生は審判として全員の子どもの「アウト」や「今、当たった」など、即座に判定を伝えていました。年長児なので、様々な訴えがありますが、担任はゲームの進行をよく見ていると感心しました。子どもたちも、教師に判定されると納得して動きます。そして、この担任が素晴らしいのは、A君が当たったときに即座に「惜しかったね。ボールに当たっちゃったね」とA君の怒りを抑える言葉をかけたり、外野にいるA君の近くに転がってきたボールをA君より先に友達が取ったときには、「友達にボールを譲れるのは偉いね」などと即座に賞賛したりして、A君がイライラしないように細やかな支援をしていました。

そのため、A君は年長児になった今では友達とトラブルになることもなく、ゲームを楽しむことができていました。

ゲームをするときに教師が判断を明確にしないと、強い者が有利にゲームが進め、ごねた方が得であると子どもたちは学習してしまいます。ゲームが楽しいのは公平なルールがあるからこそです。

今後は教師の即座の言葉かけがなくても、ルールを守ってゲームを楽しむ段階に移れそうです。

## 校内研修等での講演会（講師）の予定

6月11日	高校入試に関するケース会議 講師	渋川市内中学校
6月17日	「自閉症スペクトラム児の指導について」講師	前橋市内小学校
6月24日	「通常学級に在籍する気になる子への 指導・支援について」講師	渋川市内小学校
7月22日	「特別な支援を必要とする児童がいる通常学級での 指導・支援」講師	前橋市内小学校
9月 3日	「行動につまづきのある子と一緒のクラス経営」講 師	前橋市保育士会
10月21日	60分ケース会議 指導助言	玉村町内小学校
11月21日	60分ケース会議 指導助言	玉村町内小学校
11月25日	60分ケース会議 指導助言	渋川市内小学校
12月16日	60分ケース会議 指導助言	玉村町内小学校
1月20日	60分ケース会議 指導助言	渋川市内小学校

## 相談依頼の件数（外部支援）4～12月の結果

対象	幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	その他	計
件数	236件	184件	29件	11件	5件	465件

（その他は関係機関からの相談および研修の講師依頼）

日頃から、本校のセンター的機能の御理解と御協力をありがとうございます。  
障害の有無にかかわらず、子どもの実態把握・指導内容・指導方法について  
悩んでいることがありましたら、お気軽に御相談ください。お待ちしております。



群馬県立しrogane特別支援学校  
担 当：専門アドバイザー 尾岸 純子  
電 話：027-268-6111  
FAX：027-268-6113  
メール：shirogane-snes01@edu-g.gsn.ed.jp